

J Aおちいまばり第7次中期計画最重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業

ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochiimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元気な地域農業の復活！！」に取り組みます。							
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成28年度の目標値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
1	地域農業を守るグループ単位の営農経営支援体制の構築	農業者の育成と経営支援を通じた農業経営者の育成	農業経営支援体制の構築に向けて、担い手の農業簿記帳代行事業への取り組み人数を増大します。	平成28年度は700人、平成29年度は710人、平成30年度は720人をめざします。	年次700人	100.0%	臨税制度廃止に伴い、今治税理士会と連携し協議派遣事業の導入、確定申告支援を実施しました。担い手法人等の決算支援（26法人）及び農家の確定申告支援（青色申告473人、白色申告211人、消費税申告21名、合計件数705件）を行いました。	県農業経営管理システムを活用し、青色申告者に対する農業経営分析個別面談を実施し農家経営支援体制の整備を行います。今後、蓄積されたデータを活用し農家経営支援を実施します。	営農企画課
			地域社会への農業提案として、新たな担い手や生活者に向けて、本気の農業体験、みんなの農業講座、担い手意見交換会等を開催します。	各種提案活動の年間12回実施を3年間継続します。	年次12回	100.0%	本気の農業体験、みんなの農業講座、集落営農実践リーダー研修会、若手生産者交流会を開催し、担い手・新規栽培者の育成と農業体験等に年間19回取り組み、農業のファンづくりを行いました。	新しい担い手の確保に向け、新・農人フェアや若手生産者との交流会を開催し、新規の方へに農業提案に積極的に取り組みます。	営農企画課
2	所得増大につながる生産・販売・購買の新たな取り組み	農業者の所得増大に向けた重点品目の設定・生産から販売までの取り組み	【きゅうり】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積70a増加を3年間継続します。	基準値より70a増12.8ha	96.9%	新規栽培者への説明会の実施・新規向けの栽培講習会開催・日々の巡回と講習会を開催しました。	助成事業の充実・新規栽培者の募集（退職者）・安定生産と安定販売力強化に取り組みます。	営農指導課
				基準値から販売高1,630万円増加を3年間継続します。	基準額より1,630万増20,470万	93.9%	新規栽培者への説明会の実施・新規向けの栽培講習会開催・日々の巡回と講習会を開催しました。	新規向け講習会の充実・既存部会員も含めて栽培技術の高位平準化を図る労働力支援を継続します。	営農指導課
			【里芋】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積150a増加を3年間継続します。	基準値より150a増10ha	100.0%	新規栽培者向け説明会の実施、法人への作付け推進、部会員への規模拡大提案に取り組みました。	引き続き説明会の実施を行うと共に、朝倉地区以外での推進も積極的に行い他地区での面積拡大を図ります。	営農指導課
				基準値から販売高681万円増加を3年間継続します。	基準額より681万増5,221万	100.0%	栽培技術の向上のため。栽培講習会及び圃場巡回を行いました。（定植、灌水、防除の講習会、圃場巡回を適宜）	栽培技術の向上ため講習会を実施し、単収アップを図ります。高単価で推移する年内出荷へ誘導し、3割に満たない現状から5割程度を目指します。（平均単価で70円～80円/kgの差）	営農指導課
			【はれひめ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量90t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より90t増570t	52.6%	ブランド合格率の向上のため、瀬戸の晴れ姫登録園地の全園見回りを実施し、指導を行いました。	天候に左右されにくい栽培技術の普及推進を行います。	営農指導課
				基準値から販売高1,944万円増加を3年間継続します。	基準額より1,944万増12,312万	69.8%	瀬戸の晴れ姫トップセールスに合わせた販売促進活動を行いました。	おちいまばり産はれひめの販売価格は高値平準化してきているので、出荷数量を確保するとともに、数量増加により価格が低下しないように早めの商談を行います。	営農販売課
			【紅まどんな】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量62t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より62t増325t	76.9%	施設栽培の推進に取り組みしました。	家庭選別段階での規格外品の増加により、出荷量が伸び悩んだため、天候に左右されない施設化の推進とあわせて果皮障害対策を徹底します。	営農指導課
				基準値から販売高3,547万円増加を3年間継続します。	基準額より3,547万増18,511万	66.5%	早期商談によるギフト商材販売の拡大に取り組みしました。	集約選果を実施し紅まどんな基準の果実の品格差是正による高値販売を継続すると共に、ギフト商品に影響を与えないように下等級品の販売先を選定し、販売高増を図ります。	営農販売課
			【甘平】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量77t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より77t増295t	42.4%	高品質果実生産のためのマルチ栽培を推進しました。裂果対策指導を実施しました。	高品質果実生産指導を継続するとともに、裂果対策を徹底し、出荷量の確保に努めます。	営農指導課
				基準値から販売高3,339万円増加を3年間継続します。	基準額より3,339万増9,072万	89.7%	ギフト商材販売数量を拡大し販売単価維持を行いました。	集約選果を実施し品格差是正による高値販売を継続するとともに、販売数量増加を想定した早期商談を行い高値販売を維持します。	営農販売課
			【キウイフルーツ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量6t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より6t増667t	68.2%	新規棚の設置を推進しました。	春先の枝折、夏場の干ばつによる肥大不足、立ち枯れ病などによる様々なマイナス要因が重なり、約200トン減少した生産量の回復に向け、樹勢維持対策を徹底し、新規栽培の奨励を行います。	営農指導課
				基準値から販売高263万円増加を3年間継続します。	基準額より263万増27,694万	79.0%	下等級品の別販売に取り組みしました。	小玉果区分集荷を廃止し、家庭選別労力の軽減を図り集荷数量確保を行います。	営農販売課

J Aおちいまばり第7次中期計画最重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業

ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochiimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元気な地域農業の復活！！」に取り組みます。							
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成28年度の目標値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
		【花木】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積80a増加を3年間継続します。	基準値より80a増1.2ha	100.0%	新規栽培者説明会や栽培講習会の開催するとともに、個別の栽培指導を行いました。	地区ごとの栽培説明会を開催し、新規栽培者の募集と現行栽培者の面積増加に取り組みます。	営農指導課	
			基準値から販売高523万円増加を3年間継続します。	基準額より523万増783万	91.8%	栽培実証圃を設置し、主要出荷市場での販促活動出荷規格統一のための講習会や写真付き規格表の配布を行いました。	実証圃を元に栽培マニュアルの作成・配布と出荷市場での販促活動を継続し、国体会場でのアレンジを用いたPRやビクトリーブーケ作成に取り組みます。	営農指導課	
		生活者への情報発信を通じた信頼関係の構築による『おちいまばりブランド』の創造	マーケットイン(実需者ニーズ)に基づく農家への契約販売を実施し、グローバル戦略と地産地消の取り組みに努めます。	取扱高について、平成28年度は1.7億円、平成29年度は1.85億円、平成30年度は2億円をめざします。	取扱高1.7億円	100.0%	JA直売所連携や、行政等の紹介等により、ホテル・飲食店など、県外取引が増えたことで、農産物の取り扱いが幅広くなっています。送先からのニーズを受けながら、既存の農産物の提案や、生産現場へ作付け提案をしています。	今治で生産されている農産物の、供給量や時期の整理をおこない、アウトソーシングしながら、取り扱い量を増やしていきます。ただ、販売先が増えることで、作業場、冷蔵施設、人員の確保等の整備が直近の課題となっています。	直販開発課
		生産資材の安価供給や新しい価値を提案できる購買事業への取り組み	大口値引き対応等、目に見えて実感できる農家経営支援対策によって、大口供給や予約購買を充実し安価供給に取り組みます。	目に見えて実感できる農家経営支援対策を年間3品目以上、3年間継続します。	年間3品目以上	100.0%	果樹・野菜用殺菌剤 除草剤 土壌改良剤 肥料 農薬の期間品目限定特売を行いました。	最低3年間は継続していくが、品目については随時指導課と検討を行います。	購買店舗課
3	機動的な営農経済事業体制の確立	営農・経済事業の取り組み強化	出向く営農指導体制の強化に取り組みます。	TACの訪問件数について、月50件達成者100%を3年間継続します。	月50件達成者の割合	100.0%	トレーナーとの連携を取り農家訪問の徹底を行いました。	今後も農家訪問を重点におき所得増大に向け指導を徹底します。	営農指導課
			継続的に事業推進できる「人間力」のある営農職員の育成に努めます。	指導技術向上のための栽培試験実施について、取組率100%を3年間継続します。	取組率100%	100.0%	各研究機関・全農と栽培技術向上に向けて計画的に行いました。	研修会への参加を薦め知識向上を図ります。	営農指導課
			部門間連携による総合的な農家支援体制の構築を図ります。	作業前点検の実施について、年次300件(5名×1人60件)を3年間継続します。	年次300件(5名×1人60件)	100.0%	448件の点検整備を行い農家支援を行いました。	今後、さらに技術の向上を図り、組合員支援を行います。	農業機械課

J Aおちいまばり第7次中期計画最重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

農業生産法人株式会社ファーム咲創

ビジョン・目指すべき姿		地域農業振興に向け、新たな担い手育成と地域ニーズに対応した作業支援に取り組み、管理農地の効率的運用を図ることで安定経営ができる農業生産をめざします。							
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成28年度の目標値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
1	持続的な地域農業支援の取り組み	管理地の適正管理と新たな担い手の育成	栽培管理を徹底し売上高向上をめざします。	売上高前年比で平成28年度は1,100万円増加、平成29年度は400万円増加、平成30年度は400万円増加をめざします。	前年額より1,100万増	73.9%	適期または定期防除を実施しました。	その他肥培管理精度や圃場条件等を向上させ、収量増加をめざします。	農業経営課